

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 豊かな実践に高める —

11



平成29年度 第70回山口県学校美術展 推奨作品
「日本の近代史を漢字で表現する」
山口県立山口南総合支援学校 高等部3年生(受賞時) 村田 蒼一郎

■シリーズ「人・任・仁 ③」

■インタビュー・この人

萩市教育委員会 教育長 中村 彰利
ラジオDJ 大和 良子

■新たな職務に思う

—教諭—

山口市立宮野幼稚園 教諭 毛利光瑠菜
周南市立湯野小学校 教諭 重樹那穂子
萩市立大島小中学校 中学部教諭 前田 和久
山口県立下関南高等学校 教諭 林 友希

—栄養教諭—

上関町立上関小学校 栄養教諭 兼光 美咲
美祢市立厚保中学校 栄養教諭 屋敷村純奈

—学校事務職員—

長門市立神田小学校 主事 堂地 知良
周防大島町立大島中学校 主事 河村 凌

■わたしの潤い

防府支部 岡本早智子
長門支部 伊達 徹

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykoyoikuk.or.jp> E-mail ykoyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまくち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまくち
- ◎笑顔でつなく 安心やまくち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまくち

平成三十年四月一日に萩市教育委員会教育長に就任されておよそ七か月が過ぎました。公務ご多用の中、お時間をいただき、近況をインタビューをさせていただきます。



萩市教育委員会
教育長 中村 彰利

Q：通り一辺倒のお尋ねからお話をうかがいたいと思います。まず、教育長にご就任されて、それまでの生活や習慣が変わったことをお聞かせください。

今お尋ねになったことのお答えが、私にとっては一大事だったかもしれません。就任前は高等学校の校長でありましたし、その前も行政で仕事をしており、これまでの三十年近くは、ずっと山陽小野田市からの長距離通勤をしていました。朝早く家を出て、夜遅く家に帰る生活です。その私が、この四月から、社会人になって初めての単身赴任で、一人暮らしをしているのです。幸い職場から歩いて二、三分のところに住んでいますので、朝はゆつくりと家を出ることができずから、帰りもできる限り早めに帰るようにしています。自分の時間が増えゆつたりと生活できているのは確かです。ですから、朝のゆとりある時間帯に洗濯をしたり、シャツにアイロンをかけたりするようにになりました。この新しい習慣は、私にとって一大変化かもしれません。

Q：そうしますと、そのゆとりの時間や土曜日・日曜日の等の過ごし方も変わったということでしょうか。

土日には、市内のスポーツや文化的行事がいろいろあり、そちらに出席しますので、まとまった時間はないといった方がいかもしれません。それでも、初めて萩市に住むことになりましたので、時間がある時には市内、特に旧萩市以外の地域をいろいろ巡って、位置感覚やまちの雰囲気を楽しんでいます。旧木間小学

校にも行ってみました。それから、道の駅もたくさんあるので、けっこう楽しんでいきます。ゆとりの時間を活用して何かをしたいと思っただけですが、社会人になってからこれまでの間、どっぷりと仕事につかっていたので、残念ながら、趣味といえるようなものを持ち合わせていません。このことは、この歳になって、たいへん後悔している点です。

Q：子どものころは、どのようなお子さんだったのでしょうか。

お話できるような特徴や特技もつた子どもではありませんでした。珍しい例だと思いますが、実は、私は小学校に七年間在籍していました。三年生の時に一年近く入院しており、退院して小学校にもどった時、大事なことが一年ぬけてしまっているのは、それ以降の成長によくはないとの判断で、母親が英断したようです。したがって、三年生に二回在籍しました。

でも、小学校時代の通知表で担任の先生からの所見を紐解いてみると、手間がかかっていたであろうと推察される一年生から、学級会議長としか書かれていなかった六年生まで、確実に成長している様子を読み取ることができ、今考えてみると、当時英断を下してくれた母に感謝しています。

Q：教育長さんが、暮らしの中で大切にしておられることがあればお聞かせください。

教育長に就任してからではなく、これまでの生活の中で、頼まれたらまずは「はい」ということは、ずつと意識してきました。頼まれた仕事は、まずは受けて、その後悩み、知恵を出すということです。この基本姿勢を貫いてきたお陰で、いろいろな体験ができたし、皆から助けられたと思っっています。その時その時は大変ですが、振り返ってみれば身になっているのです。

Q：萩市の教育行政をリードされる中で感じておられる学校や地域の自慢や素晴らしい点についてお聞かせください。

本年度、市行政において組織改編があり、社会教育とスポーツ振興が市教委の所管となりました。他市ではそれが普通で、本市においても従前の形に戻ったと

言った方がいいかもしれません。このことにより、地域と学校が一層連携してスポーツや文化的行事等を推進する形が整い、子どもたちの健やかな成長に向けて協力する体制ができたと言えます。学校では地域の特色を生かした取組をしており、そして地域はそのような学校の取組に対して大変協力的だと感じています。本市は市域が広く、それぞれの地域ごとに豊かな自然、歴史、特色ある産業、そして郷土を支える人々がいて、それぞれが誇りをもちます。このような地域のよさを生かした教育が推進されることは素晴らしいことだと思います。

この素晴らしい取組を、もっと情報発信し、子どもたちの頑張る姿を広く伝えたいと思っています。そうすることで、子どもたちの自己肯定感も高まり、そのような子どもたちの姿を知ること、萩市の出身者が故郷への思いを強められたり、よさを改めて実感されたりするのではないかと思っています。

Q：子どもたちや地域の皆様の笑顔づくり、協働の姿づくりについて、今後の展望やお考えをお聞かせください。

本市では、行政と市民が一体となってまちづくりを進めるために、本年六月に「萩市基本ビジョン」を策定しました。そして、まちづくりを進めるのは人であることから、本市における人づくりの基本理念や方向性を示した「ひとづくり構想」を策定しているところです。明治百五十年という大きな節目にあたり、市民の皆様の声を聴きながら知恵を絞っているところで、まさにこの「ひとづくり構想」

が今後の展望を示すものになると考えているところです。

今後は、市内の高等学校との連携も深めていきたいと考えています。市内の小・中学校、中学校と高等学校、そして教育行政が連携を深めて、子どもたちにとってよりよい教育についてさらに長い目で捉え考えていきたいと思っています。



(以上要約) インタビューアー：山本 晃久

「一日の仕事が終わる、帰路に就く車の中で、ラジオから山口弁を交えた心地よいおしゃべりが耳に入ります。新山口駅北口広場のFM山口ゼロ・スタジオから届いている生番組「COZINESS」です。そのパーソナリティーを務める大和良子さんにお話をうかがいました。



ラジオDJ
大和 良子

Q 大和さんのお仕事についてお聞かせください。

自分の仕事は、「ラジオ・ディスクジョッキー（以下DJ）」です。ラジオDJというのは、音楽のあるジャンルについて突出して詳しく、その音楽に関して、新譜でも旧譜でも、洋楽でも邦楽でも、作りの気持ちや曲の魅力を聞き手に伝えることを役割としています。アナウンサーとは立ち位置が異なっています。

高等学校を卒業後、大阪に出て、関西エリアのラジオ局に採用されたことから、アメリカンスタイルで曲と曲をつないだり紹介したりすることを通して、力強くエネルギーッシュな文化を創造していくことを学びました。この点が、他県に比べると山口県ではやや薄いと感じていますが、このスタイルでもってラジオDJとして活動しているということですね。

Q 小中学校のころはどのようなお子さんだったのでしょうか。

とにかく音楽が好きで、新しい曲のかっこよさを人に伝えたいという気持ちで人一倍強かったです。小学校低学年からAMラジオを聞き、五年生の時にはすでにラジオDJに憧れていました。大殿小学校五年生の時に、音質のいい音楽がしょっちゅう流れているFM山口が開局し、学校が終わるとすぐに帰宅してずっと聴いていました。FMを聴いている子どもは私くらいだったでしょう。いわゆる組織の中にと、変わりが白目で見られる傾向がありますが、自分は人と同じであることがいやでした。人と違うことに目を向けていること、そして、幼心ではありますが、「このミュー

ジシャンはきつと世に出てくる」と思ったらず出てきたことから、次の時代を読むという感覚には自信をもっていました。ですから、変わり者と思われることを何とも思っていませんでした。人と違っていても、将来は世の中に出たいと願っていましたから、勉強はしっかりしました。さらに、基本的なところができていないと、人にもは伝えられないと思っていましたから、勉強だけでなく、生活面でもきちんとしており、基本的に校則を守るタイプでした。

また、私は特定のグループに属さない子どもで、常に学級や学校を俯瞰していたので、いつも学級委員や生徒会事務局役員をしていて、トラブルの調整役を任せられることは多かったです。

Q 番組の中で山口弁を交えた軽妙なトークが印象的ですが、これはどのようにして生まれたのですか。

私が山口弁を使う時、それは基本リスナーの声なのです。リスナーの誰かが必ず思っていることを山口弁ですくすく取っています。ですから、それは「あなたの声」なのです。山口弁がおもしろい、印象に残ると言ってくれるのは、「あなたがそう思っているから」です。聴き手の思いをさらさらと言ったから、聴き手は、「そうなんよ」「それっちゃ」となるのです。最初から山口弁を使おうと思っていたわけではありません。聴いてくれている方が基本山口県の方で、山口県の方のことを思うから「それいね」と山口弁が出るのです。

Q 大切にしておられる「生き方」についてお話しください。

周囲の人は、私のことを「深としてかっこいい」と言いますが、自分としては、全くそんなことは考えていません。ただ、自分は「二十四時間、ラジオDJとして生きていたい」と思っています。オンエアは一日四時間ですが、それ以外の時間も全て取材だと思っていますから、物事を常にラジオDJに結びつけて、「こうだったら、そうしゃべれるな」という風に見ています。



もちろん新聞も全紙目を通しますし、映画を観たりコンサートに行ったり、本を読んだりもします。ある意味、息つく暇なく必死に働いていて神経過敏な状態だとも言えますが、体の健康と心の健康には気を遣い、自らブレキをかけながら頑張っています。その時々体調でしゃべっていることが違ってはいけませんからね。

でも、人もテクノロジーもめまぐるしく変化する時代の中で、発信する立場にあるプロのDJとして常にブラッシュアップし続けなければならぬと思っています。

Q 教育に期待することをお聞かせください。

先生方は話し方が上手にならないといけないと思っています。教室の一番後ろに届かない小さな声だったり、子どもの目をつきつきり見なかったり、誰にしゃべっているのかはつきりしていないかだったりしては、子どもの心はつかめないし、動かすこともできません。「本当にこのことを子どもに伝えたいと思ってるのか」「本当にそれが子どもに伝えたいと思ってるのか」と思ってしまうか。「本当にそれが子どもに伝えたいと思ってるのか」と思ってしまうか。この熱意と技を秘めた話し方ができているかということですね。

しゃべらせていただけると、子どもたちに何かを伝えさせていただけるということは貴重で有り難いことです。当然のことですが、学校生活は、そのような先生の働きかけによって、こんな大人になりたいといった憧れや自分はこうありたいといった希望など、いわばその子の人生観が決定づけられる数年間だと思っています。ラジオ放送においても、「このことを今しゃべったなら、リスナーはどう思うか」ということを常に考えながら話しているのが適当にはしゃべれません。かといって台本があるわけでもないのですから、私の瞬発力のみでしゃべっていることになりません。先生方が一時間目、二時間目という、まさにライブ（生放送）の中で、瞬間瞬間に子どもたちに聞かせる言葉を厳選しているのと同じです。

多感な子どもたちが今求めていることをしっかりと想像しながら、必要な時に、必要な言葉で伝えるという一瞬一瞬の積み重ねによって子どもたちを未来に導いていく先生方の仕事も、まさに放送の仕事と一緒だと思います。

(以上要約 インタビュー…山本 晃久)

大好きな子どもたちと共に



山口市立宮野幼稚園

教諭 毛利光 瑠菜

大学を卒業し、幼い頃から追い続けていた幼稚園の先生になるという夢が叶って七か月が経ちました。想像を超える仕事の種類と量の多さに驚き、仕事一つ一つに責任の重さを痛感しながら、嵐のように過ぎ去った日々でした。

配属になった山口市立宮野幼稚園では、三歳児十五名を担当しています。子どもたちは、一人一人個性豊かで本当に可愛く、大人の私では想像できないような面白い発想や感覚をもって日々楽しませてくれます。しかし、私も初めての担任で、子どもたちも集団生活が初めて。私の準備や臨機応変さが足りず、子どもたちを困らせてしまうことが何度もありました。大好きな子どもたちに「先生！」と呼ばれることが嬉しいと同時に、私は子どもたちに何もしてあげられていないと申し訳なく思う毎日でした。

そんな中で頑張ることができたのは、話を親身に聞きアドバイスをくださったたり、「新採の今だからこそ感じたり見たりできることがたくさんあるよ」という言葉を掛けてくださったという先生方の支えがあったからです。そして何より原動力になったのが、「先生大好き！」と抱きついてくる可愛くて愛おしくて仕方がない子どもたちの笑顔や、目を見張るほどの頑張りや成



長です。今では、子どもたちが楽しんでいれることや感じていることに少しずつ向き合えるようになり、夏休み前には「幼稚園お休みいまだ！」と言ってくれるまでになりました。

私の今年度の目標は「笑顔で過ごす」です。二学期も上手くいかないことはたくさんあると思いますが、常に子どもたちの立場になって考えながら、今の私ができることに精一杯取り組んでいきたいと思っています。

子どもの力を引き出す教師を目指して



周南市立湯野小学校

教諭 重榎 那穂子

「ぼくがひつぱって、みんなが支えてくれた」。運動会の後、団長がみんなに伝えた言葉です。

新規採用教員として湯野小学校に着任し、約半年が経ちました。本校は、児童数三十二人の小さな学校です。

今年度、運動会のスローガンは、「一致団結」でした。「三十二人にしかできない、新しいものを作りたい」そんな六年生の思いから始まった練習で、私は、赤組の応援担当になりました。

いざ練習が始まると、時間がない、上手く指示が伝わらない、応援の動きが複雑で下学年に難しい…。どうしたらいいのか、「新しいもの」をどう作りあげればいいのか分からず、試行錯誤しながら、本当に苦しい時間を過ごしました。

いよいよ本番。圧巻でした。堂々と前を見据えた構え、力強く気合の入った声、自信を持った動き、そして、赤組十六人の心が一つになったウェーブ。観客の心を魅了する演技でした。そして、運動会後の団長の言葉が胸に突き刺さりました。練習の時、子どもたちも上手くできなくて悩み、苦しんでいたんだなと思いました。「みんなが一つになれば、僕たちらしいものができる」という気持ちを持っていたから出てきた言葉だと思いました。



自分を信じ、仲間を信じ、みんなで作り上げる新たなものを目指すと、子どもたちの可能性を広げていく、そんな教師のやりがいを感じた瞬間でした。

まだまだ経験が浅く、日々精進ですが、子どもたちの百分以上の力を引き出せるそんな教師を目指してこれからも頑張りたいです。

萩大島の子どものために



萩市立大島小中学校

中学部教諭 前田 和久

私は、平成二十七年年度に小学校教員に採用され、昨年度までの三年間、萩市内の小学校に勤務していました。この間、子どもたちや保護者、地域の方々との関わりを通して多くのことを学ばせていただきました。その中で、数学教育の専門性を高めたいという思いが強くなり、昨年度改めて教員採用試験を受験しました。そして今春、新規採用中学校教員として、大島小中学校に着任しました。

四月から約半年、中学二年生の学級担任、男子バスケットボール部の顧問など、中学校教員として初めての経験はうまくいかないこともありましたが、多くの方々を支えられ、日々の指導に取り組んでいます。

小学校教諭から中学校教諭に立場が変わり、その違いをもっとも感じているのが、子どもたちと関わる時間の長さです。学級担任制の小学校と違い、中学校では担当する授業の時間が、生徒と密に関わることができず、主眼時間であると思います。この点から、今まで以上に「授業力」を高めていく必要性を感じました。毎時間の授業を大切に、生徒理解を深め、数学の楽しさを伝えられる授業力を身に付けていきたいと思っています。

また、本校は、今年度から萩市教



育委員会規則による小中一貫教育校となり、これまで以上に九年間の子どもの成長を見通した指導に力を入れています。小中合同活動や、地域に根ざした特色ある教育を通して、子どもたちは、学年を超えた仲間や、地域の方々との関わりながら、主体的に学習を進めています。

私も、そのような萩大島の教育に携わる一員として、これまでの経験を生かしながら中学部の教員として子どもたちの「わかった!」という笑顔を見ることができるよう、自己研鑽に努めたいと思います。

もっと学びたいと思える授業をめざして



山口県立下関南高等学校

教諭 林 友希

新規採用の教員として下関南高校に赴任し、無事に二学期が過ぎ二学期を送っています。慣れない土地での新しい生活は初めての連続で戸惑うことも多いですが、生徒の明るさや先生方の優しさに支えられながら、楽しく充実した毎日を送っています。

本校は創立百十三年の歴史と伝統があり、穏やかで落ち着いた校風です。生徒はとても素直で、何事にも一生懸命に取り組むことができます。また、先生方も授業だけでなく、休み時間や放課後を使って学習指導や部活動の指導を熱心に行っており、このような素晴らしい環境で働けることをとても幸せに感じています。

四月からの教員生活では、特に生徒とのコミュニケーションを大切にしています。担当している英語の授業では、全体での指導だけでなく、ペア、グループでの活動を取り入れながら、積極的に机間指導を行い、生徒一人ひとりの様子を観察したり声かけを行ったりしています。また授業以外の時間では、英語に関する質問に答えることをはじめ、学校や家庭での出来事や生徒の興味のあることについての話をすることを通して、信頼関係の構築に努めています。

また、日々の学習指導や生徒指導



において反省することもしばしばですが、自ら改善策を調べたり周りの先生方に相談したりしながら、少しでもよい対応ができるよう心掛けています。

教員二年目の今は、特に教科の専門性や指導技術の向上に力を入れ、生徒が自ら「もっと学びたい」と思える授業ができるよう精進していきたいです。また、これからの長い教員生活の中でも、今の新鮮な気持ちや向上心を忘れず、様々なことに積極的にチャレンジし、生徒とともに成長できる教員であり続けたいと思っています。



栄養教諭として一歩ずつ

上関町立上関小学校
栄養教諭 兼光 美咲

栄養教諭として新規採用され、上関小学校に赴任して約半年が経ちました。忙しくも、楽しく充実した毎日を送っています。

上関小学校は、きれいな海と山に囲まれた、全校児童六十六人の小さな学校です。自然豊かな上関町で育っている子どもたちは、素直で元気いっぱいです。また、地域とのつながりも強く、とても温かく、素敵な学校です。本校では、ランチルームで全校児童と一緒に給食を食べます。毎日の給食を楽しみにしている子、野菜や魚が苦手な子など、様々な子がいます。私は、子どもたちに食べることの大切さや、給食で使われている食材の栄養について少しでも多く伝えることができると心掛けています。

同じ敷地内にある上関中学校にも毎日小学校から給食を配送しており、中学校での食育指導にも取り組んでいます。七月には、町の保健師、食生活改善推進委員、小中の養護教諭と連携して、小五と中二とその保護者を対象とした「ヘルスアップ教室」を実施しました。食生活アンケートの結果をもとに、朝食の重要性について考えたり、簡単な朝食を作ったりしました。親子で朝食を見直し、食に関心をもつ、よい機会となりました。



最初は、右も左も分からなかった私が、この半年間、何とかこのような活動ができたのは、上関小中学校の先生方や、他校の栄養教諭の方々にたくさん指導していただき、支えられたからだに感謝しています。そして何より、日々、子どもたちの笑顔に励まされてきました。

子どもたちが、将来、健康で豊かな人生を送るためには、子どもの頃から食習慣が重要であると考えます。まだまだ未熟ではありますが、栄養教諭として今後も挑戦したいことが山ほどあります。食について興味・関心をもち、心身の健康を自ら考え、行動できるような子どもたちを育てることを目指し、栄養教諭として成長していきたいです。



栄養教諭として成長するために

美祿市立厚保中学校
栄養教諭 屋敷村 純奈

美祿市は非常に食材豊かで、様々な特産物に恵まれています。私が勤務する厚保地区にも、厚保くりという特産物があります。そのような場所にある厚保中学校に着任して、早くも七か月が経過しました。厚保中学校の生徒はとても元気で、すれ違った時には大きな声で挨拶をしてくれます。食への関心も高く、給食が残ることはまずありません。先生方も、温かく協力的な方ばかりで、職員室には和やかな雰囲気の流れています。

このような恵まれた環境のもと、私は毎日六校分の給食を作っています。給食を作るにあたっては、栄養バランスや季節感、行事、味付け、安全面等、多くのことを考慮する必要があります。そのような条件下での献立作成は容易ではなく、失敗することも多々あります。しかし不思議なことに、どんなに失敗して落ち込んでも、おもしろい給食を食べる子どもたちの姿や、空になって返ってきた食缶を見ると、自然と元気になります。そのような子どもたちのためにも、これからも安心安全でおいしい給食の提供を目指して頑張りたいと思っています。

食に関する指導の面では、配送校にて、幾度か給食時間の指導や授業をする機会をいただきました。慣れない



いことで、毎回課題ばかりの結果にはなっていますが、全てが勉強となる貴重な時間だと感じています。今後もお話する機会を大切にしながら、指導の力も磨いていく所存です。

栄養教諭の強みは、専門性を生かして食の大切さや喜び、楽しみを伝えられるところだと思います。今は目の前の仕事で精一杯になり、できないことも多いですが、今後はよりいっそう子どもたちと関わりながら、栄養教諭として成長できるよう頑張りたいです。

一人前の事務職員を目指して



長門市立神田小学校
主事 堂地 知良

私は、子どもが好きで、早く社会に出たいと思い、学校事務職員になりました。しかし、この仕事のイメージは決して良いものではありませんでした。というのも、黙々と職員室でデスクワークをし、子どもたちと関わる機会など全くないと思っていたからです。実際、学生の頃の事務職員の方々の名前を覚えていませんでした。

現在、休み時間には子どもたちとサッカーをしたり、鬼ごっこをしたりと関わる機会がとて多くあります。このおかげもあり、子どもたちにも名前を覚えてもらうこともでき、とてもうれしかったです。「事務職員になってよかった」と毎日充実した生活が送れています。

事務職員になっていろいろなことに気づくことができました。今までは考えもしなかった、メモを取ることも大切さ、言葉遣いの難しさ、社会に出ることの大変さを実感しました。わからないことばかりで、日々頭の中にはパンクしてしまふほどの情報が入ってきます。それでも、一つ一つクリアして喜びややりがいを感じています。

しかし、充実しているとはいえず、分からないことも多く迷惑をかけて

しまうこともありました。失敗をして気持ちが悪み、やめてしまいたいと思うこともあります。高等学校の顧問の先生は、「人の価値は失敗するかどうかではなく、失敗から立ち上がれるかどうかで決まる」と教えてくださいました。この言葉のおかげで、失敗から逃げず、向き合い、解決することができています。

私も、この先生のように子どもたちの心を支えていけるようにになりたいと思います。そして、いつかは「堂地先生のようにな事務職員になりたい」と子どもたちから言われるように、日々努力していきたいと思っています。



学校事務職員になって



周防大島町立大島中学校
主事 江村 凌

私が学校事務職員として働き始めて七か月が過ぎました。私にとって、この七か月は仕事に慣れたというより、分らないことと向き合いながら時間が過ぎたという感じがしています。不安なことが尽きることはまだありませんが、本校の教職員、町内の事務職員や前任の事務職員の方々に助けられながら、ようやくここが自分の居場所だというイメージが湧いてきたところです。

まだ業務も一つ一つ確かめながらこなしている自分が毎朝当たり前のようになり、大島中学校に来て仕事ができていることが、とてもありがたいことだと感じています。

今の自分の目標は、基本的な業務に関しては誰にも聞かずに行えるようになることです。日々行っている業務でもまだ知らないことが多く、少し変化があると、これで本当に正しいのかと迷うことが多くあります。効率よく業務をしていくためにも早く自分の知識を増やし、その場で処理できる力を付けたいと思います。

大島中学校に勤務して私を感じたことは、学校が生徒と先生が気兼ねなく会話できる場所だということです。私が学生の頃は、先生は先生、生徒は生徒といった立場上の隔たりがあったように思います。先生を尊敬する

といった点ではいいことのように思えますが、本当に困ったことがあった際に、すぐに相談しやすい存在としての「先生」がおられる本校は、子どもたちにとっても価値あるものだと感じています。私もそのような先生方と一緒に「子どもたちが楽しく充実して過ごし、成長することができる学校」を目指し事務職員として成長していきたいと考えています。



喜寿を過ぎて、文系に拡がった私の世界



防府支部
岡本 早智子

平成二十六年、喜寿を迎えた春のこと、防府野村望東尼会から会長を引き受けて欲しいと頼まれました。私にとつては晴天の霹靂でした。幕末の勤王歌人望東尼が、維新の夜明け前に防府で客死、桑山にお墓があることは存じていましたが、私はそんな器ではないと思つたのです。私は、学校時代から歴史や文芸は大の苦手で、常に避けて通り、大学での専攻も高校教師への道でも、物理を選びました。したがつて、退職後もこのような活動の経験は、この歳まで皆無なのです。

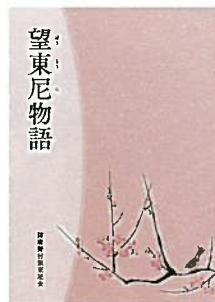
お返事に困つていた時、思い出したのは日野原重明先生のお言葉「何歳になつても創めることを忘れないで」でした。私は、ハツと気付かされました。考えてみれば、新前の私が会長になつても、他の役員はベテランが揃つている。その人達にしっかりと協力してもらいながら、望東尼様のためにも、私自身のためにも始めてみようかと思うようになり、会長を受けました。

最初の役員会では、百五十回忌を二年先に控え、記念事業の準備が急がれていましたので、その一つとして、子どもから大人まで読める望東尼の本「望東尼物語」(B5版、二六〇ページ)の刊行について、当会の全役員十数名が編集委員となり取り組むことを早

速申し合わせました。

まず、監修をお願いする先生を講師に、望東尼の生涯を辿る学習会を開き、役員も一緒に学び、その記録冊子を参考にしながら、章別のグループに別れて原稿を書き初めて…。結果は「大成功!」でした。役員たちは「こんな

に本気で勉強したのは初めて」と、本の出来



上ガリを喜び、読者からは「とても読み易い」「望東尼がよく分かる」など、嬉しい声があり、当会に元気を頂いています。私は終始、各グループの調整役でしたが、歴史や文芸の本つくりの面白さと奥深さを知つた事が収穫です。

実はこの経験が出発点となり、今年には防府市文化協会の立場から、同じねらいをもつた種田山頭火の本を刊行しました。全国的に好評です。

人生つて本当に嬉しいものですね。



健全な人生を歩む



長門支部
伊達 徹

小学校を定年退職した後、地元の深川幼稚園の園長として二十年間勤務させていただき、昨年新しい園長さんにバトンタッチをしました。深川幼稚園では、新たなスタートをさせていただきます。

この二十年間、色々な活動に取り組み、苦労もありましたが、充実した日々の中、幼児期における教育の役割と保育の重要性について再認識させられ、私にとつても、また、幼稚園にとつても大きい収穫になりました。幼児期における子どもの育ちは、人として成長していく上での土台となり、その後の小学校教育の原点となる大切にするべきことであると強く実感したところでした。

この点を踏まえて、幼稚園では多様な活動を取り入れ、豊かな感性をはじめ知徳体を育む保育を目指した取組を進めてきました。

特に大切にしてきたことは、活動体験を重視することでした。例えば、野菜や果樹の栽培、お世話の体験活動では、子どもたちは、収穫の楽しさや喜びを味わい、野菜を食べることができるようになりました。このことにより、食育の目標が達成できたと考えています。

さて、深川幼稚園は、長年お世話

になつたし、山口県教育会長門支部の事務局としても協力いただいたので、そのお礼の気持ちから、野菜や果樹の管理のお手伝いをしたいと考えています。先般、周防大島町でボランティアをされ、全国的に話題となった尾島さんには及びませんが、残された人生を、幾分なりとも地域社会の人のために役立てばと考えているところです。人は誰かのために役立ち、感謝されれば体内で健康によい物質が分泌され、より健康が維持できると聞いています。そのために、これからも幼稚園をはじめ色々なことに、やれる範囲でボランティア精神を持って活動を行い、私の健全(健康で幸せ)な人生の歩みを充実させたいと思つているところです。

